

国英地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年8月9日(火) 19:00~20:20

2 会 場 国英地区公民館

3 出席者 地元出席者 18名

市側出席者 19名

深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、田中企画推進部長、久野地域振興局長、大田経済観光部長、国森農林水産部長、保木本中核市推進局次長、奥村上教育委員会事務局次長、渡邊秘書課長

<河原町総合支所>窪田支所長、西尾副支所長(司会)、西山市民福祉課長、長谷産業建設課長、寸村水道局河原所長

<事務局>岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局次長) ※チラシに基づき説明

5 第10次総合計画についての説明

(企画推進部長) ※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 国英旧小学校跡地利用について

<地域課題>

地区内で話し合った結果、体育館建設の意見多し(多目的)

- ・地区民の体力増進
- ・避難所(兼)
- ・サークル活動
- ・防災資機材(含)

<担当部局の所見等>

【河原町総合支所、教育委員会】

教育委員会では、「市民体育館等あり方検討委員会」を設置し、市全体の体育館のあり方を検討していただいている段階で、その意見等も含め整備方針等を決めていくこととなりますが、当該地については、近隣に体育館が複数あることや面積が標準的な体育館には足りないことなどを考えると、建設は難しいと考えます。

国英旧小学校跡地の利用については、昨年度、地区公民館駐車場用地として、1千800万円で取得したところです。土地の今後の利活用については、地域の皆様に、目的や機能、管理等についてしっかりと検討していただき、何が最善なのか市も一緒に協議させていただきたいと考えます。

(総合支所長)

教育委員会では「市民体育館等あり方検討委員会」を設置し、市全体の体育館のあり方を検討しているところです。この委員会で、委員の意見をいただきながら体育館の整備方針を決めていくこととなりますが、国英地区は近隣に体育館が複数整備されていること、また、地区体育館の標準的な規模がありますが、この小学校跡地では面積が少し足り苦しいことがあり、標準的な体育館の建設は難しいと考えています。

旧小学校跡地は、地区で利用する駐車場として昨年購入したばかりです。今後の利活用については、皆様と一緒に、もう少し時間をかけて目的や機能等を踏まえて考えさせていただきたいと思えます。

以前、土地が民間所有であった時は、地域が望まないような利活用をされるかもしれないというご意見もいただいていたのですが、現在は鳥取市の所有になっていますので、もうそのような心配はないとお考えさせていただきたいと思えます。

鳥取市全体の公共施設のあり方との整合性を保ちつつ、地域の皆様のお気持ちに沿った形で答えを出していきたいと思っています。

(地元意見)

確かに土地の面積が小さいという感じは受けます。また、河原町内の体育館数を考えると、確かに河原町内には体育館が多いように見られるだろうとも思えます。ただ、国英地区は、今ある体育館の位置から離れています。

また、イナテックが河原町に来られたので、工業団地にお勤めの方々との交流の機会を持つためにも、少し規模を拡大してでもこの近辺に作っていくべきではないかと思えます。

人口減少が少しずつ進行しているので、交流の機会を持つためにも前向きに考えてもらえればと思えます。

(深澤市長)

私も、この国英地区に体育施設等を建設できれば非常によいと個人的に思い続けたところもあります。

総合支所長が説明したように、鳥取市の体育館の標準的な規模を考えると、敷地が少し足り苦しいかとも思えます。そういった施設の基準的なものはありますが、この敷地に見合ったような規模の施設を考えていくことも一つの方法ではないかと思えます。地区体育館という位置付けでなく、例えば地域のスポーツ施設、皆様が集う施設としての位置付けで進めていくということであれば可能ではないかと思えます。

実は、6月30日にご要望いただいて以降、副市長や総務部長、関係課等と、何とかご要望に沿って実現できる方法がないか、財源等を含めて検討しているところです。併せて、

河原町内の体育館



どの程度の規模であれば現在の敷地に収まるかなどの具体的な検討をしています。

今後、皆様と一緒に、何とか実現に向けて精一杯努力したいと思っていますので、よろしくお願ひします。

(地元意見)

私は、避難場所のことを一番に考えています。今、災害が発生した時の避難場所としてテレビで見るのは、ほとんどが体育館です。

国英地区には、千代川という壁があります。仮に地震が発生して川の橋が全て流された場合、極端に言えば郡家町に頼るしかなく、鳥取市に頼る所がないという地理的な問題があるのです。それを考えると、災害が発生した時に皆がとりあえず当分の間凌げる避難場所が必要です。

だから、「体育館」という表現にはなるでしょうが、「体育館」及び「倉庫」であって「食料の備蓄ができる避難場所」として活用できることが大事ではないかと思ひ、体育館の案に賛成したところではあります。

(深澤市長)

私も災害発生時の避難場所として、ここは非常に優れた場所だと思います。少し高い位置にありますし、グラウンドもあります。また、地区公民館と隣接した施設であれば相乗的に効果が発揮できますし、備蓄倉庫等としても非常に適地ではないかと思ひますので、地区体育館ということだけではなく、「体育施設」プラス「防災上の拠点施設」といった位置付けも一つあると、内部での検討の中でも話しているところです。

そういった視点も踏まえ、今後、実現に向けて検討を続けていきたいと思ひます。

(地元意見)

冒頭の市の説明で、「河原町内には体育館が複数ある」と言われましたが、全て千代川の西側で、東側にはありません。だから災害時等には絶対必要だと思います。

(深澤市長)

私もそのとおりだと思います。河原町の公共施設等の配置状況を見ると、ほとんどと言ってよい施設が、千代川の左岸側に設置されている状況にあると思ひます。

そんな中、バイパスやインター線、鳥取道が供用開始になりました。また、この度は工業団地、そして東部広域の可燃物処理施設整備事業で格別にお世話になっています。そういった町全体の公共施設の配置バランス等も考え、千代川右岸側、国英地区にも公共施設の設置が必要ではないかと考えます。

(地元意見)

災害が発生した時に、国英地区の人々が安心して避難できる場所はここだと思います。公民館だけでは手狭なように思ひるので、ここに体育館を建ててほしいと考えています。

(深澤市長)

地区体育館という位置付けだけでなく、防災の拠点という位置付けも大切ではないかというご意見をいただきました。私もそのとおりだと思います。そういった視点も持ちながら、この事業をどうすれば実現できるか、庁内でしっかり検討したいと思います。

(地元意見)

市長の回答を聞いて、だいたい要望が叶えてもらえるのではないかと思います。

国英地区まちづくり協議会は、体育館がないために、川の向こうの産業体育館等まで行って事業等を行っています。事業には国英地区中の方が参加され、本当に盛況です。

また、公民館も、踊ったり跳ねたり、卓球したりと結構利用しておられます。体育館、及び防災の拠点として、何とかお願いします。

(深澤市長)

できる限り皆様のご要望にお答えできるよう、精一杯努力したいと思います。

7 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

霊石山がジオパークに指定されました。まちづくり協議会としても結構活動をしており、看板設置などに取り組もうと思うのですが、鳥取市側のエリアは一部分です。もう少しエリアを広げ、支援を充実してもらえないでしょうか。

(経済観光部長)

平成22年に、山陰海岸ジオパークの認定の際に霊石山の一部が認定されました。そして平成26年の再認定の時に、御子岩も含めた鳥取市側の区域が山陰海岸ジオパークの区域となりました。これを受け、少し遅くなりましたが、今年3月に頂上に看板を設置しました。また来年から、4年に一度の日本認定、世界認定がありますので、さらに磨きをかけていく必要があると考えているところです。

一方で、人が来られた時に案内できるジオガイドの育成が重要になってきており、その体制作りを河原の地域の皆様と検討しているところです。市としてもジオガイドやセミナーの開催等に取り組んでいきたいと考えていますが、「鳥取市山陰海岸ジオパーク魅力活用総合補助金」という補助金を設けていますので、地域の皆様も積極的に活用していただきたいと思います。補助メニューのうち、例えば「産業振興につながる事業」は、ジオパークをPRする土産物や飲食品の開発及びその商品のPRに要する経費が対象で、補助率が4/5、上限が20万円です。この他、「ジオツーリズムの振興につながる事業」、「受入れ態勢の向上につながる事業」、「普及・啓発の推進につながる事業」

霊石山の保全・利活用について			
鳥取市山陰海岸ジオパーク魅力活用総合補助金(要旨)			
対象事業	補助対象	補助率	限度額
産業振興につながる事業	ジオパークをPRする土産物や飲食品の開発及びその商品のPRに要する経費	4/5	20万円
ジオツーリズムの振興につながる事業	ジオツーリズムの開発及び振興につながると認められる事業の経費	4/5	20万円
受入れ態勢の向上につながる事業	観光客のもてなしの向上につながる事業やガイドの育成に関する経費	4/5	20万円
普及・啓発の推進につながる事業	研修会、講演会、イベントの等地域の機運醸成や知識の向上につながる事業	4/5	40万円

※ご相談は、鳥取砂丘・ジオパーク推進課まで

事業」など、4つの補助メニューがありますので、ご相談ください。

(地元意見)

霊石山の崖の補修について質問します。島根県ではがけ崩れで亡くなった方があり、それを受けていろいろな箇所を点検しています。私達も春と秋の年2回、保全作業として霊石山に上がって草刈りをしてはいますが、石がむき出しになっていたり道路に転がっていたり、道路にも穴が開いていたり、上がる道中で非常に危険を感じます。ジオパークにすれば粗末だと思ったりもします。崖の補修と道路の補修について、状況を伺いたいです。

(農林水産部長)

島根県の事故を受け、本市も5月に市内全域の林道について安全点検を行いました。その中で、中山林道も点検し、緊急に非常に危険であるという箇所は見当たりませんでした。浮石や側溝の傷みは確認しています。本市としては、法面や水路などを計画的に修繕していきたいと考えており、現在、県等と現在の状況を順位付けしながら、どこから着手いくかなど検討しているところですので、結果をまたご報告したいと思います。

(地元意見)

6月1日に、県から中山林道を確認するから立ち会ってほしいと依頼があり、私の部落から前部落長と私が立ち会って確認しました。今の回答で、「緊急に危険な箇所は見当たらない」とのことでしたが、県との確認の時には、緊急に危険な箇所が2か所ありました。1か所は御子岩のすぐ下の所で、木は切ってありましたが、木の根の影響で崖が出ていて危険なので、すぐ取り除こうという話になりました。同様に危険箇所がお寺の近くにも1か所ありました。そちらも、緊急を要する所が早急に取り除き、併せて入口の所に「落石注意」の看板を設置されました。その後は確認しに行っていないのですが、県は何とか予算をつけて修繕したいとのことでした。

山に上がってみると分かりますが、大きな石がむき出しになっています。2月か3月が一番落石が多いです。おそらく雪の影響だと思います。冬になると一日中土が乾かず、乾かないうちにまた雪が降ってきます。そうすると、石が落ちてきます。私も、今年だけでも20個から30個程度の石を脇にどかしましたが、2月か3月頃、雪解けの終わった時期に、一度大きい石を取り除いてほしいです。

また、林道に穴がたくさんあいています。県との立ち合いの時に、「費用をかける必要はないので、路肩にある土を使ってでも埋めてほしい」とお願いしたら、一週間程度で実施してありました。最近、時々総合支所の産業建設課の職員が上がっているようですが、土日にはハングライダーの客も結構来られます。簡単な方法でよいので、こまめに確認し、大きな穴の箇所だけでも緊急の修繕をお願いしたいです。

(農林水産部長)

6月1日の確認の際には、我々も現場写真を撮影しています。側溝が詰まっている箇所があり、そこが原因ではないかという話もありましたので、再度確認し、傷んでいる部分の修繕はしたいと思います。年度の改修事業で実施したいと考えていますので、順位付け

しながら順次実施したいと思います。

(地元意見)

霊石山に、沢の水が年中途切れな箇所があります。その水を側溝に流すようになっていたのですが、側溝が埋まっていて道路に溢れています。

これはもともと沢として流れていた水が、林道をつけたために路肩にある側溝を流れることになったが、その側溝が詰まって途中からオーバーフローしているのだと思います。

水が落ちる所に溝を作り、すぐに下へ流すというようなことができないでしょうか。

(地元意見)

昔、霊石山の上に1反ほどの田んぼがあったそうです。1,000㎡の田んぼができるほど水があるということで、たぶん途切れないと思うので、何かの拍子に大きな災害が発生する可能性もあると思います。

(農林水産部長)

現場に詳しい総合支所産業建設課と一緒に現地を確認し、どういう方法がよいか、今ご提案いただいたように、道を切って他に流すことが本当にできるかどうか検討したいと思います。

(担当課補足：総合支所産業建設課)

平成28年8月10日、片山部落長から詳しく聞き取りをさせていただき、平成28年8月19日に現地確認しました。その後、平成28年10月17日に部落長と最終協議、併せて内部協議した結果、以下のとおり対応することとしています。

・排水不良箇所（側溝埋没等）については土砂撤去により応急対応（平成28年10月中旬対応済）

・『道路を切って他の場所に流すこと（横断工、立排水工等設置）については、平成29年度に当該林道の法面対策事業を計画していますので、その事業と併せて対応することとしています。

(地元意見)

近年、イノシシ、シカ、サル等の有害動物が田んぼや畑を荒らして大変困っています。対策をお願いします。

(農林水産部長)

本市では、捕獲対策と柵で囲う対策の二つの対策に取り組んでいます。有害鳥獣の対策に関する予算も、平成25年度は5千万円程度でしたが、平成28年度予算は約6千万円です。昨年は、イノシシは約2,500頭、シカは約730頭捕獲しました。我々も一所懸命捕獲していますが、追いついていないのが現状です。今後も、いろいろなご意見をお聞きしつつ取り組んでいきたいと思っておりますので、何かありましたら総合支所を通してご相談ください。

(地元意見)

これから新しい可燃物処理施設が建設されていくものと期待しています。必要な物は作っていかねばいけないと思っていますし、「これから本当にできていくのだな」という思いです。安全安心に操業できるようお願いします。

(深澤市長)

私も、安全安心な施設であることがまず一番だと考えています。東部広域はもとより1市4町で、このことに全力で取り組みたいと思っていますので、よろしくお願いします。

(地元意見)

この辺りで薬用植物の試験栽培をやっていければと考えています。今の日本の医療費は非常に高騰しています。先端医療だから高いのだと思いますが、例えば1錠が7万円する錠剤もあります。それを飲み続けてC型肝炎ウィルスを治療するには、数か月で約670万円～700万円が必要です。その後の対策も必要で、今はジェネリック医薬品という後発医薬品を使用するよう奨励され、ほとんどの病院で出されているようです。日本の調剤薬局から出る医療費は約7兆9千億円あるようです。

漢方薬を使用したことのある医師は98%ほどいるようで、その生薬の原料は約85%が中国から輸入しています。しかし、中国は最近裕福になっていて健康志向が非常に強くなっていますし、天然の生薬の乱獲等もあり昨年からは保護政策を取っているため、以前と比較して価格が倍以上になっており、日本は大変高い物を買う事態になっています。

国や県が補助金を出していますので、鳥取市でも補助制度を作り、少しでも農業従事者の収入が増える政策を実行してほしいです。

(深澤市長)

国も、ジェネリック医薬品を推奨しており、将来的に8割程度はジェネリック医薬品で賄うという目標を立てているようです。医療費も含めた社会保障額は、先日の報道では平成14年度が112兆円で昨年度が116兆円であり、そのうちの約3割が医療費とのものでしたので、30兆円を超えることとなります。これを何とか抑えることが、国を挙げた大きな課題になっています。健康保持増進のためにも、そういった漢方薬等も非常に効果があると思っています。

(農林水産部長)

健康志向が非常に高まっています。本市でもクワやハトムギ等を栽培し、ゼンヤクノーに卸して健康食品にしています。県も今年から「薬用作物等生産振興対策事業」に取り組んでいます。この事業では、試作にかかる経費、機械や施設等の導入経費、販路開拓の経費等が補助の対象となります。

まずは、第1歩として生産者のグループを立ち上げていただければと思います。市としても、事業の内容等をしっかり説明させていただき、お手伝いできることをしたいと思います。

(地元意見)

国英地区は農村地帯で稲作が一番多いですが、いつまでも米には頼れないということもあり、何か特産物が作れないかと考えています。今の質問と回答を聞いていて、いきなりというわけにはいかないと思いますので、グループなり個人なりで始めて、何とか広げていきたいという気持ちがあります。ぜひ後押しをお願いします。

(農林水産部長)

一つ目のステップとして、どういったものが有望品目かなど農業改良普及所等も含めて考えてみたいと思います。まずは、どういうことができるのか、皆様と一緒に考えてみたいと思います。

(地元意見)

国英地区の山手工業団地では、いよいよ株式会社イナテックが稼働しました。造成もだいぶ完了しているようですが、他企業の次の話はきているのでしょうか。

(経済観光部長)

株式会社イナテックは6月11日に創業されました。100人の雇用予定のうち、現在40数名が雇用されています。山手工業団地にはグラウンド等も作る予定にしており、残っている土地について企業誘致に動いているところです。今、具体的な動きはありませんが、株式会社イナテックも駐車場が欲しいと考えておられるようですし、関連企業をどうにかということも考えておられるようです。今後も、布袋工業団地も含め、積極的に誘致に取り組んでいきたいと考えています。

(地元意見)

先日、国英地区の納涼祭に株式会社イナテックの工場長が来られていたので、「今後、社員が100人程度になると聞いているが、社員のオフタイムはどう過ごしていますか」などの世間話をしました。これからはそういうことを含めて地域の開発をしていかなければいけないと思います。工場長は行政サイドも企業サイドも含めた突っ込んだ話をされ、私は良いヒントをたくさん聞き、得るものがたくさんありました。そして話をしていく中で、これからは地元だけではなく総合的に皆が喜んで利用できる施設を作っていかなければいけないと感じました。

もう一点、工場長に、5年や10年で辞めて逃げていくのではないかと心配している住民もいると話しました。工場長は、「オートマティックは先進地では普及しているが、後進国はほとんどトランスミッションなので、このマーケットは今後も20年から30年は安定してあります。心配されなくても大丈夫です。」と力強くおっしゃいました。私も「50年でも60年でもここで頑張ってくださいね。」と話しました。先ほどの回答ではまだ具体的な動きはないとのことでしたが、今後もまだまだ増えていく可能性があると思います。その時には、若い社員をうまく地元に取り込むような企業と官民一体のものを、地元も含めて考えていかなければいけないと思っています。市もそういった部分を勉強して、地元

が繁栄するようお願いします。

(深澤市長)

山手工業団地には株式会社イナテック、布袋工業団地には株式会社ササヤマ、マルサンアイ株式会社など、非常に今後有望な企業に進出していただいています。

株式会社イナテックは、ご縁があって鳥取市に立地いただきました。今後も国英地区の皆様をはじめ、市民の皆様と交流を深めていただきたいと思います。稲垣社長もそういったお考えをお持ちの方で、地域の皆様との交流を大切にいただける社長であるように私は常々思っています。また、大きな自動車メーカーに部品を供給しておられ、非常に優良で将来有望な企業ですので、経営が立ち行かなくなって撤退されるということはまず有り得ないと認識しています。軌道に乗っていかれば、また事業拡張等もされると思いますし、もしかしたら関連企業もこちらに進出されるということもあるのではないかと期待を持っているところです。

社員の人数もどんどん増やしていかれると思いますので、引き続き交流等を深めていただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

(地元意見)

市は、人口増加に向けて工業団地等を造成したり、若い人に向けて就職場所を発信するなどしています。

本日の地域づくり懇談会の冒頭にあった説明では、中核市移行によって利便性が良くなるとのことでしたが、人口が減少し高齢者が増加して、山間地の方では道や田んぼが荒れてきているような現状で、中核市に移行したところで本当に鳥取市が良くなっていくのか、私達は心配しています。若い人が定着してくれたり子どもが増加したりすれば、いろいろな施設が活用されるような良い所になると思いますが、本日の地域づくり懇談会は市の分野ごとの幹部が出席されていますので、「どういう鳥取市にしていきたい」など、今後のイメージや考えがあれば聞きたいです。

(深澤市長)

人口減少や高齢化は、鳥取市はもとより、国全体の大きな課題であり大きな流れです。

「いろいろな取り組みを実施すれば、何年かで人口減少に歯止めがかかり人口が増加する」と期待するのは、残念ながら難しいと考えています。

1868年の日本の人口は3,300万人余りでした。これが2008年、ほんの8年程前に1億2,810万人になりました。この時が日本の人口のピークです。ちょうど140年かけて、1億人近い人数が増加しました。平均すると、1年に67万人増加した計算になります。それが今、急激に減少しようとしています。

いかにこの人口減少を食い止めるかが、今の地方創生の取り組みです。UJIターンを促進したり、合計特殊出生率を上げていく、子育てをしやすい環境を整えていくなど、いろいろなことを総合的に進めて人口減少に歯止めをかけるということです。その方策の一つが、中核市移行です。利便性を向上させることも、もちろん大きな目的ですが、この山陰東部圏域の中心市としての役割を果たしていくための拠点性を高めていくというもう一

つの大きな目的があります。例えば道路や鉄道などのインフラを整備する際にも、中核市か一般市かといった違いは必ず出てきます。ですから、今、中核市移行という選択をするべきだと判断しています。このことは、鳥取市が良くなることに必ずつながっていくと確信しています。何もしなければ、ただ人口が減少して衰退し、活力が失われた地域になっていくと考えていますので、中長期的に我々の次の世代を見据えた取り組みであるをご理解いただきたいと思います。

(企画推進部長)

今年度から第10次総合計画が始まりました。その総合計画の戦略として、地方に活力を取り戻す「ひとづくり」、「しごとづくり」、「まちづくり」を掲げています。「ひとづくり」は、子どもを生み育てることと併せ、地域に愛着を持てる子どもを育てていくといった教育面もあります。「しごとづくり」は、今、取り組んでいる工業団地などを総合的に進めていきます。これは一朝一夕にできるものではありません。まさに戦略ですので、5年間の施策として進めてはいますが、もっと長い目で見ることがあるだろうと考えています。本日お渡しした資料にも山陰新幹線の誘致に関するチラシがありますが、まずはこうした息の長い取り組みを進めたいと思います。

鳥取市として、また中核市という拠点性を持ちながら、鳥取市だけではなく周辺の自治体と一緒に、広域で活性化を図っていくという取り組みを始めたところです。

(地域振興局長)

地域振興局は中山間地域の振興に加え、移住定住促進という大きなテーマに取り組んでいます。総合戦略の中の具体的施策として、今後5年間で1,100世帯以上、2,000人以上の方に移住していただくという目標を立てています。これは、一般的な住民異動ではなく、UターンやIターンを含め相談窓口を通して移住してくださった方の数を増やしたいという思いです。市役所本庁の地域振興課には3名の相談員を置いています。また、鳥取駅前にも新たに3名の相談員を配置していますし、東京や大阪にも相談員を配置しています。移住定住相談員に一番大事なことは、いろいろな対応をこまめに丁寧に進めていくことです。

昨年、「ふるさと田舎回帰の戦略会議」として、銀行や子育て関係、大学等の関係団体等に集まっていただき、どうすれば人口を増やすことができるか戦略を練っているところです。その中で、昨年8月にはUターンを専門とした受付窓口を作り、Uターンの希望があればその受付窓口で情報を伝えています。これは、鳥取に帰りたいと考えている方ご本人だけではなく、例えば、現在鳥取にお住まいの方から、ご自分の子どもを鳥取に帰らせたいという情報をいただいた場合も、受付窓口で情報を伝達するようにしています。鳥取は仕事が無いという話がよく出ますが、今は雇用したくても人がいないという逆の状況になっています。仕事が無いというイメージを変えていく必要があると内部では話していますし、仕事はあるという情報をいかに鳥取市外に流していくかについて、思案しながら取り組みを進めているところです。

(経済観光部長)

地域の活性化として、経済部門では「産業の振興」があります。工業団地の話もありましたが、地元企業に元気になっていただくことも大切です。また、若い方が新たに仕事を始めていかれる「起業化」の支援をしています。安心して生活できる働く場の確保が重要だと考えており、鳥取市創生総合戦略でも、5年間で5,000人の正規雇用者を創造することを目標に取り組んでいるところです。

一方で、鳥取市に魅力がなければいけませんので、「観光の振興」に取り組めます。これは「定住人口」というより「交流人口」の話になりますが、外国人旅行者も含め、多くの観光客にお越しいただける、魅力のある都市にしていくことが重要だと考えています。

(総務部長)

総務部は財政を担当しています。財政状況は厳しいですが、その中にあっても高齢化を迎えている現状、あるいは子育て環境の整備など、歳出面で必要なものには手を打っていかねばならないと考えています。

また、中核市移行により、鳥取市ばかりでなく山陰東部圏域の発展、全国に対しての発信という部分も出てくると思います。一般市と中核市は、やはり全国から見た捉え方も異なると思います。企業誘致や地場産業の育成を進めることにより市民の皆様に納めていただく税金や企業からいただく法人税等で市の財政の強化を図りながら、中核市移行の取り組みも進めていきたいと考えています。

(農林水産部長)

鳥取市において農業は非常にウエイトが大きいと考えています。農業の担い手は第一次産業の命題ですので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

農業者の高齢化率は70%を超えています。以前は共同で作業していたものが、高齢化の進行により共同作業ができなくなってきたという話もあります。

大きな命題ですが、「農地を守りつつ、しっかり儲かる農業」に取り組んでいきたいと考えています。個人でされる農業もなかなか難しくなっている中で、集落営農や法人化といった視点も持ちつつ、長持ちする農業に向けてしっかり取り組んでいきたいと思っています。

(防災調整監)

「防災対策」、「減災対策」は市の根源的な業務です。防災減災対策も鳥取市だけではできないようなこともありますし、いざという時には周辺自治体と連携して力を合わせることも必要です。常備消防については、現在も東部広域行政管理組合で事務を行っていますが、山陰東部圏域の中心都市として、防災減災対策を周辺の自治体と一緒に、着実に取り組んでいくことが必要だと考えています。

8 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

限られた時間でしたが、熱心にご意見ご質問、ご提言をいただき、心から感謝申し上げます。

最後には、各部局長から一言ずつ思いの一端を述べさせていただく機会を与えていただき、ありがとうございました。市政の課題はたくさんありますが、今述べさせていただいたように、それぞれの部局が、日々、精一杯全力で取り組んでいます。

私は常々、鳥取市はまだまだ将来や可能性を信じて進んでいける、ポテンシャルのあるまちだと考えています。鳥取市は今、持っているいろいろな特性や魅力を最大限生かしてまちづくりを進めていく、まさにその時期にあると思っています。

国英地区のまちづくりについても、私は今後一層全力で取り組んで努力していきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

熱心にご議論いただいたことに重ねて心から感謝申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。